

「働きやすい環境」整備

【千葉】ロジックスライン（沢田秀明社長、千葉県成田市）では、ドライバーとの個人面談を通して定着率向上を図っている。現場の意見や要望を聴取するとともに、会社の将来的な方針や意向を伝達。労使間のコミュニケーションを深めることで、従業員の心理的な負担を和らげつつ、働きやすい環境整備に努める。

従業員が退職する理由の一つとして、不平不満を話さずのため込むことが挙げられる。運送業界で人手不足が叫ばれる中、沢田社長

ロジックスライン

は「辞める時では手遅れ」と、以前行っていた個人面談を再開することとなった。

ドライバー全29人を対象に、1月30日から2週間程度で実施。年数の短い人から行い、若手の意見を聴取した上で、ベテランに若手のケアの協力を仰ぐ。事前に、沢田氏が独自の面談票を作成。待遇面、業務内容、給与面などに関する希望、働き方改革を踏まえた理想の働き方などの項目を設けた。

面談は、直前に記入して

面談で運転者定着はかる

もらった面談票を基に行う。ドライバーの意見や考えを伝えてもらいつつ、会社として安全機器を採用している理由や仕事に対する心構え、将来的な方針などを伝えた。



沢田氏は「できれば年に1回の頻度で行いたい。今後は空港スタッフや事務職員とも面談する方針だ」と話す。

また、会社では、従業員の家族に仕事への理解を深めてもらうことにも注力。社内報を作成して会社の状況や出来事などを伝えるほか、従業員の妻には誕生日にメッセージを添えたプレゼントを贈呈している。今後は、家族を招いた懇親会の開催などについて検討していく。（井内亨）

面談する沢田社長と
ドライバー